

# YAMAUCHI ANIMAL CENTER NEWS

9月号 VOL. 93



〒189-0013

東京都東村山市栄町 2-22-22 エムティビル

URL: <http://www.yamauchi-ac.com/>

042-393-7878

診察時間 午前 9 時～12 時

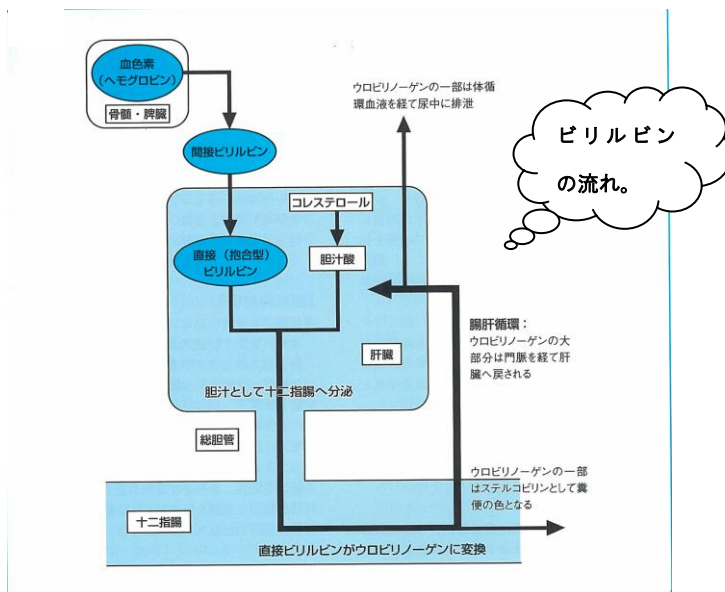
午後 3 時～8 時



## からだが黄色くなる病気 “黄疸”

黄疸とは、血液中の「ビリルビン」という物質が増え、皮膚や口の粘膜・目の粘膜が黄色くみえる状態のことをいいます。

ビリルビンは、血液中の赤血球に含まれるヘモグロビンという物質（ヘモグロビンは酸素をからだ中に運ぶ役目をしています。）が代謝してできたものです。ビリルビンが、脾臓などで代謝され、間接ビリルビンになり、血液中のアルブミンという物質と結合して、肝臓に運ばれます。最終的には、肝臓でグルクロン酸抱合と呼ばれる処理をして、直接ビリルビンになり、胆のうにたまり、総胆管を通過して腸管へ排泄されます。



参考文献：コンパニオンアニマルの内科疾患学入門

正常な動物では、左に示したようにビリルビンはつくり、排泄されますが、何らかの理由で、この仕組みが追いつかないほど大量のビリルビンができるか、排泄の流れがどこかでせき止められているかで、血液中に過剰のビリルビンが溢れ出て黄疸が起こります。

ここで、ビリルビンの生成・排泄の流れを考えながらからだのどこが病気になると黄疸がおこるか考えてみましょう。一般的に肝臓にたどりつく前と後で考えるとわかりやすいです。

**肝前性**：処理するビリルビンの絶対量が多い。

血液中の赤血球がこわれる溶血があるとき。

疾患（免疫介在性溶血性貧血、玉ねぎ中毒、大量輸血、バベシア症、脾機能亢進症など）

**肝性**：肝臓の機能が低下して、ビリルビンの処理が上手くできないとき。

疾患（ウイルス性肝炎、薬剤性肝炎、肝硬変、肝腫瘍、胆管炎、肝繊維症など）

**肝後性**：ビリルビンの量も肝臓の機能も正常でありながらビリルビンがとおる経路が詰まっているとき。

疾患（胆石、胆管系の腫瘍など）

黄疸は、基本的には原因となる疾患の治療を行わない限り、改善されません。お薬を飲んだり、点滴をしたりする内科療法や場合によっては胆のうを摘出するなどの外科療法が必要とされます。

山内獣医師の皮膚科の診療時間  
午前 10 時～12 時 午後 3 時～ 5 時となります。  
急な不在につきましては随時、HP、院内掲示にてお知らせいたしますが、なるべく御来院前にお電話にてお問合せいただきますようお願い致します。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

9月の休診日  
毎週木曜日と20日（月）敬老の日が休診日となります。

